

の1網当りの出現個体数が多いことがうなずける。塩分量では、モードの34.31-34.40%は夏の平均塩分量の中に含まれるが夏の1網当りの出現個体数は少ない。しかし、34.31-34.40%は春と秋にも多く出現するので水温と同じく秋の出現個体数が多いことからこういう結果になった。

2) 科別、種別出現状況

1 Dussumieridae ウルメイワシ科 (3回出現、5尾)

Spratelloides japonicus (HOUTTUYN) キビナゴ (3回出現、5尾)

1972年8月、O-2に1尾、O-4に3尾、全長範囲8.0-10.5mmが出現した。

1973年6月、A-10に全長67.7mmの未成魚が出現した。沖縄近海にはキビナゴ属にはキビナゴ、ミナミキビナゴ、バカジャコの3種が分布し、それらは鰭条数、鰭把数の違いで分類される。

2 Engraulidae カタクチイワシ科 (20回出現、332尾)

Stolephorus pseudoheterolobus HARDENBERG ミズスル (4回出現、50尾)

秋期に出現した。

出現海域は近海域

と湾内、出現個体

の全長組成を図一

3に示した。全長

範囲は7.7-33.3

mmでモードは8.1

-10.0mmであっ

た。出現時の表面

水温は24.1-27.9

°Cの範囲ですべて

夜間に出現した。

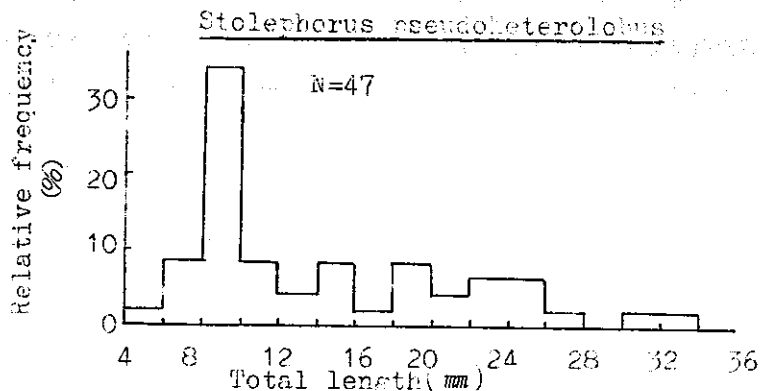


Figure-3 Total length composition of larvae of Stolephorus pseudoheterolobus

Engraulidae gen. spp. カタクチイワシ科種不明 (12回出現、286尾)

夏期から冬期にかけて出現し、出現盛期は秋期、沖縄近海にはカタクチイワシ科の魚種はミズスル、台湾アイノコ、インドアイノコ等で、これらの3種が多く生息し、カタクチイワシは生息していない。しかし東支那海域にはカタクチイワシが生息し、今回の調査で得られた資料のO-4、O-5、O-6に出現した稚仔魚はカタクチイワシ、その他の近海域および湾内に出現した稚仔魚は台湾アイノコ、インドアイノコと思われた。

出現個体の全長範囲は5.0-27.8mmであった。

3 Gonorhynchidae ネズミギス科 (38回出現、4709尾)

Gonorhynchus abbreviatus TEMMINCT et SCHLEGEL ネズミギス (38回出現、4709尾)

全出現個体数の約42%に当り夏期から冬期にかけて出現した。出現盛期は秋期、出現海域は全海域で、A-1、A-9、A-10、B-2、B-8を除く調査点に出現した。ネズミギスの分布の中心は東支那海域(O-6)および黒潮主流域(O-5)である。稚魚の出現した表面水温は21.1°Cから29.0°Cまでの範囲で、1網当りの各水温階級別の出現個体数と、出現地点数は図-4のようになった。出現個体数は26-27°Cに最も多い。個体数加重平均水

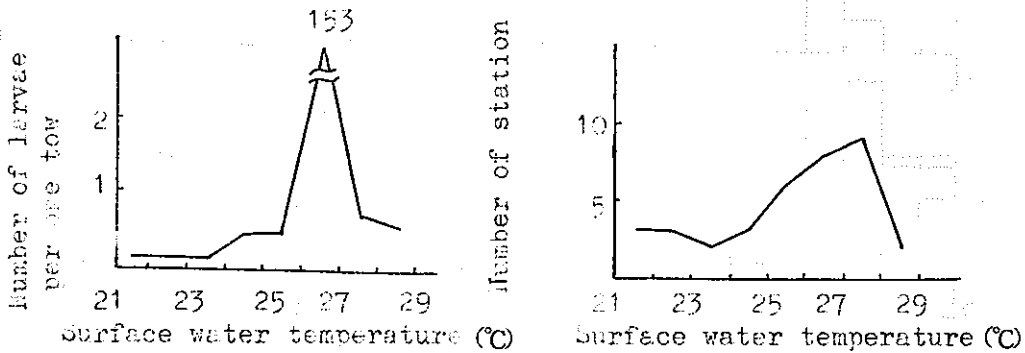


Figure-4 Relationship between surface temperature and occurrence of Gonorhynchus abbreviatus

温は26.2°Cである。

また水温階級別出現

点数は27-28°C

に峰を有する単峰型

を示した。地点数加

重平均水温は25.6

°Cである。1月の時

刻別の1網当りの出

現個体数をみると図

-5の通りである。

出現個体数は10-

18時の屋間に多く

出現し、夜間には少

ない。

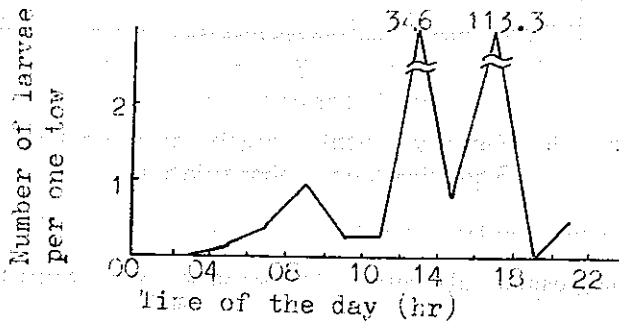


Figure -5 Relationship between time of the day and occurrence of Gonorhynchus abbreviatus, per one tow

今回出現した稚仔魚は全長3.8-7.2.0mmで月別体長は図-6に示した通りである。沖縄近海ではネズミギスは、全長4.5mm以下の仔魚が出てくる8月から10月にかけて産卵すると思